



令和5年度発掘調査

埋文

さかたん年報



長岡遺跡32区全景写真

坂戸市教育委員会

ごあいさつ

坂戸市は埼玉県の中部に位置し、高麗川こまや越辺川おっぺといった中小河川が市内を流れています。さらには、起伏の少ない平坦な台地が市域の大部分を占め、台地の縁辺部には河川の氾濫によって形成された肥沃な沖積平野ちゅうせきが広がっています。このような地形的な好環境により、1万年以上も昔から人々は生活を営み続けてきました。その営みは、今日の発掘調査により私たちの眼前に姿を表しています。

坂戸市では153箇所が遺跡（周知の埋蔵文化財包蔵地）として登録され、市内の開発を契機に記録保存を目的とした発掘調査が行われています。令和5年度では、15地点において発掘調査が行われ、貴重な遺構・遺物が出土しました。日々の生活では体験できない発掘調査の様子を、「埋文さかど年報」を通じて体験していただければ幸いです。

年表

旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代 <small>あすか飛鳥時代</small>	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	室町時代							
約3万5千年前	約1万5千年前	約1万2千年前	約5千年前	約2,300年前	約1,000年前	約1,200年前	約1,000年前							
大陸から日本列島へ人々が渡ってくる	市内で石器が出土（後期旧石器時代） 土器誕生	市内最古の土器が出土（縄文時代早期）	市内各所で環状集落が営まれる（縄文時代中期）	大家地区で多彩な耳飾りが出土	市内各所で環状集落が営まれる（縄文時代中期）	前方後円墳の出現 市内で方形周溝墓が造られる	佐賀県吉野ケ里遺跡の環濠集落などができる 墳丘墓の出現 青銅器（銅鐸）などが使用される 稲作伝来・鉄器などが使用される	国内で須恵器の生産が始まる	若葉駅周辺に大規模な集落が出現する 勝呂廃寺や東山道武蔵路がつくられる 大化の改新（乙巳の変）645年	市内で大型古墳が造られる	平城京遷都（710年） 東大寺に大仏が造立される（752年）	関東で平将門の乱が発生（935年） 平安京遷都（794年）	入西地区で大規模な鋳物工房が操業される 鎌倉幕府成立 壇ノ浦の戦いで平家滅亡（1185年） 入西地区や勝呂地区の武士が活躍する	南北朝の動乱 室町幕府の成立（1338年） 鎌倉幕府滅亡（1333年）

用語解説

【竪穴建物（たてあなたてもの）】

半地下式構造の建物。居住だけではなく工房や倉庫等、様々な用途に使用された。

【掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）】

地面に掘った穴の中に柱を立てた建物。平屋構造、高床構造に分類される。

【カマド】

竪穴建物内に設置された加熱施設。調理や暖房として使用された。

【土師器（はじき）】

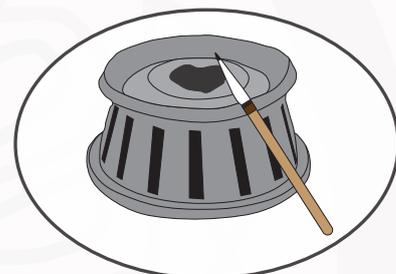
古墳時代以降に作られた素焼きの焼き物。焼き上がりは赤褐色や黄橙色になる。

【須恵器（すえき）】

古墳時代に朝鮮半島から伝来した硬質の焼き物。ロクロで成形され登り窯を用いて焼成する。焼き上がりは青灰色や灰色となる。

【円面硯（えんめんけん）】

主に古代の役所などで使用された円形の硯。使用者の位階すずりによっては装飾性豊かな円面硯えんめんけんが使用された。使用者の位階いかい



円面硯再現図

【板碑（いたび）】

板状に加工した石材を用いて作られる供養塔くようとうの一種。

【坩堝（るつぼ）】

金属を溶かし加工する際に用いられた道具。坩堝るつぼに付着する金属を分析することで、遺跡内での金属加工の様子を探ることができる。



紡錘車再現図

【石製紡錘車（せきせいぼうすいしゃ）】

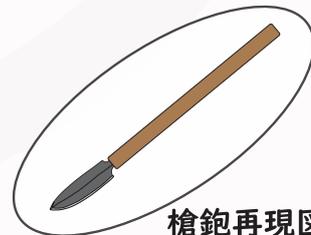
糸を紡ぐための道具。石製の他に鉄製ていせいや土製とうせい、陶製も発見されている。

【方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）】

方形に巡らせた溝の内側に盛土を有する墓。前方後円墳ぜんぼうこうえんふんが造られる前の時代を代表する墓制。

【槍鉋（やりがんな）】

木材を削る道具。大小様々で使用用途に応じて使い分けられた。



槍鉋再現図

【白色針状物質（はくしょくしんじょうぶっしつ）】

かいめんこっしん海綿骨針とも呼ばれる。須恵器の材料である粘土に含まれる海綿類の骨組織。古代の海に生息した海綿類の骨組織が海底に堆積し土中に残ったもの。海底の隆起りゅうきと共に地表に現れ粘土化し、その粘土が須恵器作りに使用された。

No. 1 ^{うちて}内出遺跡 15区 (坂戸市大字^{ほりごめ}堀込地内)

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和5年4月10日(月)～4月25日(火)

調査面積：109㎡

検出遺構：土坑3基、ピット2基、溝2条

^{うちて}内出遺跡15区の発掘調査では、大型の土坑を検出し土坑の内部から^{えんめんけん}円面硯が出土しました。^{えんめんけん}円面硯とは古代の『すずり』のことで、奈良・平安時代の役人などの間で限定的に使用されました。^{うちて}内出遺跡周辺には文字の分かる識字層が存在し、集落の取りまとめなどをしていたのかもしれませんが。



^{うちて}内出遺跡 15区全景写真



^{えんめんけん}円面硯

また、調査区域中央付近より粘土採掘坑を検出しました。この粘土採掘坑は^{うちて}内出遺跡12区で検出した粘土採掘坑と同じ土坑であると考えられます。(埋文さかど令和4年度参照) 粘土採掘坑からの出土遺物は限定的で、詳しい掘削年代は不明です。しかし、近隣には中世の^{ちゅうぞう}鑄造遺跡である^{かない}金井遺跡B区が隣接しています。^{うちて}内出遺跡から掘り出した粘土を^{いがた}鑄型などの原料として使用した可能性も考えられます。



粘土採掘坑完掘状況

《^{かない}金井遺跡 B区》

^{かない}金井遺跡は坂戸市大字新堀の毛呂台地上に位置し、縄文時代から中・近世の遺構と遺物が検出されています。特に平成元年以降に調査された『^{かない}金井遺跡 B区』では、全国的にも類例の少ない中世の^{ちゅうぞう}鑄造遺構が発見され、^{ぼんしょう}仏像や梵鐘の鑄型といった^{かない}仏教用具や、鉄鍋や^{はがま}羽釜、農具等の生活道具の生産を行っていたことが明らかとなりました。これらの生産活動には入西地域を^{につさい}拠点とした武蔵武士との関わりも推測され、中世の坂戸を研究するうえでの重要な遺跡となっています。

No. 2 ^{はなかげ}花影遺跡 3 | 区 (^{なかとみ}坂戸市大字中富町地内)

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和5年4月20日(木)～5月25日(木)

調査面積：52㎡

検出遺構：竪穴建物2棟、ピット8基

^{はなかげ}花影遺跡 3 | 区の発掘調査では、奈良時代の竪穴建物を2棟検出しました。

1号竪穴建物は、床面中央部に4つの穴が掘られています。この穴は柱を据えるための
^{ちゅうけつ}柱穴と考えられ、柱は建物の

の屋根を支える重要な役割を果たしました。また、1号竪穴建物の写真右側には、土が赤く変色している箇所があります。これは、建物の内部に造られたカマドの痕跡です。土が赤く変色しているのは火を使ったことによる被熱の影響によるもので、日常的にカマドを使用していたことが分かります。



1号竪穴建物



出土した^{つき}坏



出土した^{とうす}刀子

出土した遺物は須恵器の^{つき}坏や鉄製の^{とうす}刀子が出土しています。須恵器の^{つき}坏は生活食器として使用されました。刀子は小型の刃物で、日常的な道具として様々な用途に使用されたと考えられています。

《^{とうす}刀子》

^{とうす}刀子は古墳時代以降の遺跡から多く出土する古代の刃物の一つです。

紙が貴重であった古代の役人は、紙の代わりに^{もっかん}木簡(木でできた札)を使用し行政文書を作成していました。使用された^{もっかん}木簡は刀子を使って表面を削り再利用され、別の文書が作成されました。このような一連の様子から古代の役人は「^{とうひつ}刀筆の吏」とも呼ばれています。

このように^{とうす}刀子は、古代の生活や行政をも支える重要な道具の一つだったのです。

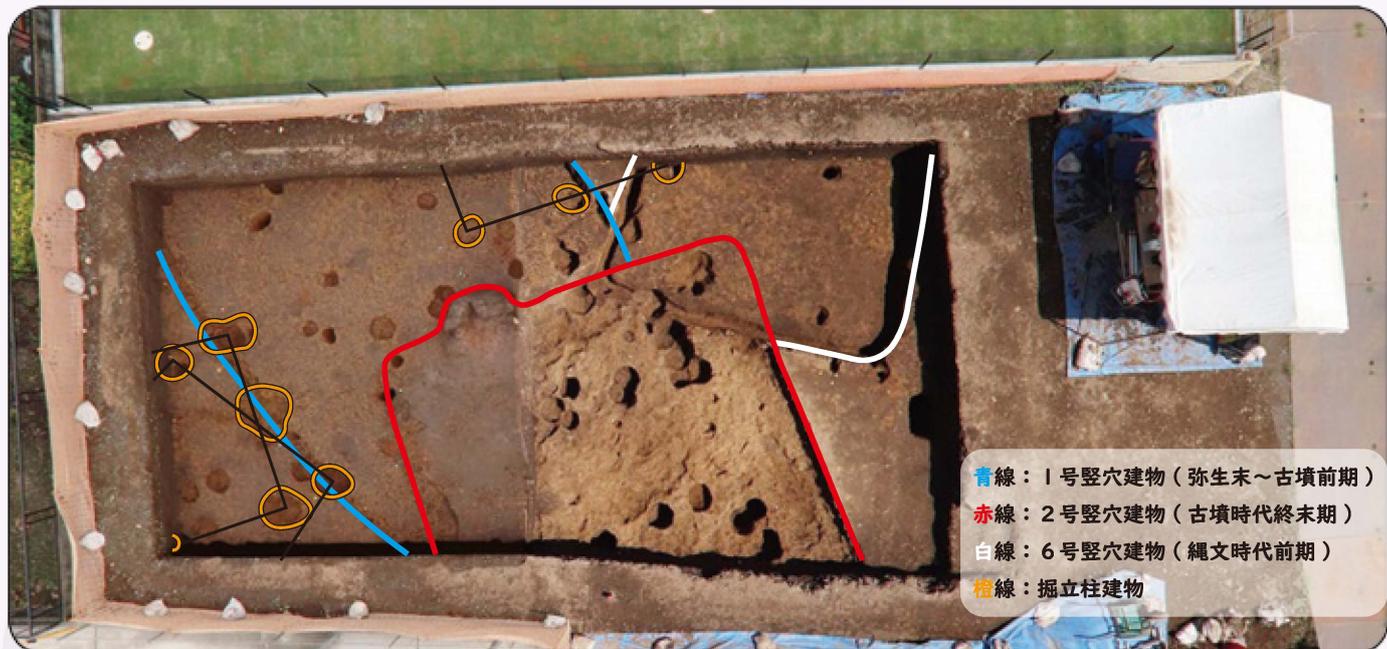
ながおか
No. 3 長岡遺跡 3 2 区 (坂戸市大字長岡地内)

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和 5 年 5 月 1 6 日 (月) ~ 7 月 1 4 日 (金)

調査面積：1 0 3 m²

検出遺構：竪穴建物 6 棟、掘立柱建物 3 棟、ピット 8 基



ながおか
長岡遺跡 3 2 区 全景写真

ながおか
長岡遺跡は坂戸市入西地区の毛呂台地上に位置し、遺跡の眼下には越辺川が流れています。水源にも近い恵まれた地勢から、古くは旧石器時代までの痕跡が発見されています。

3 2 区の発掘調査では、複数の竪穴建物が発見されました。1号竪穴建物は楕円形の形状をしており、直径は約 1 0 m を測る大型の竪穴建物です。建物内からは『吉ヶ谷式』と^{よしがやつ}呼称される弥生時代末期から古墳時代前期にかけての土器が発見されています。2号竪穴建物は、出土遺物の年代観から古墳時代終末期の竪穴建物であることが分かりました。2号竪穴建物からは多量の遺物が発見され、良好な一括資料となりました。

《奇妙な須恵器》

2号竪穴建物から奇妙な須恵器が出土しました。この須恵器の表面には爪楊枝で開けられたかのような無数の穴が開けられています。一体どのように使用されたのでしょうか。

この須恵器は『すり鉢』と呼ばれており、無数に開けられた穴は、須恵器を焼成する際に火の通りをよくするためとも考えられています。しかし、はっきりとした事は分かっていません。謎の多い出土遺物の一つです。



若葉台遺跡出土 すり鉢



↑長岡遺跡 3 2 区出土 すり鉢 (底部の裏側)

No.4 中原遺跡16区(坂戸市大字堀込地内)

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和5年7月21日(金)～8月18日(金)

調査面積：69㎡

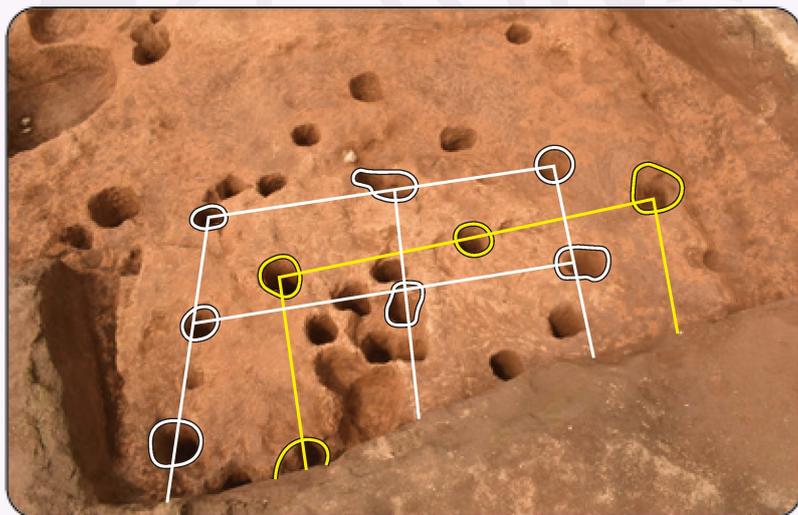
検出遺構：掘立柱建物2棟、井戸1基、土坑1基、ピット20基、溝2条

中原遺跡は坂戸市西部の入西地区に位置しています。今回の発掘調査では室町時代の遺構・遺物が発掘されました。

調査した井戸跡の中からは、石材と共に廃棄されたと思われる板碑(板石塔婆)が出土しています。この板碑には『応永15年』(1408年)の年号が刻まれており、およそ15世紀初めごろに製作されたと考えられます。



板碑出土状況



掘立柱建物跡検出状況

井戸跡の他には掘立柱建物跡が2棟検出されました。2棟ともほぼ同一位置に建築されているため、建て替えが行われた可能性が考えられます。また、2棟の柱穴の他にも、柱穴と思われる円形の掘り込みが複数箇所を確認できるため、他の建物の存在も疑われます。

《 坩堝 金属加工の痕跡 》



坩堝



スラグ

写真の遺物は、中原遺跡16区から出土している『坩堝』の破片です。『坩堝』とは、金属を溶かし加工する際に使用された道具の一つです。出土した坩堝には金属が付着しており、鑄造や精錬といった金属加工に使用されたと考えられます。また、坩堝の他に金属加工の痕跡として、スラグ(金属を溶かした際に出る不純物)が出土しています。

中原遺跡16区から出土する遺物からは、金属加工に汗を流す中世の職人の姿を想像することができます。

No.5 柁遺跡10区(坂戸市大字石井地内)

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和5年9月29日(金)～10月13日(金)

調査面積：62㎡

検出遺構：竪穴建物1棟、土坑3基、溝2条

柁遺跡は坂戸市勝呂地区の坂戸台地上に位置しています。これまでの発掘調査では、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落跡や方形周溝墓が発見されています。

今回の発掘調査では、竪穴建物1棟、溝1条、土坑3基を検出しました。検出した竪穴建物は1辺3m×3mの大きさで正方形に近い形をしています。また、出土遺物としては波状の文様が特徴的な岩鼻式土器(弥生時代後期)が出土しています。

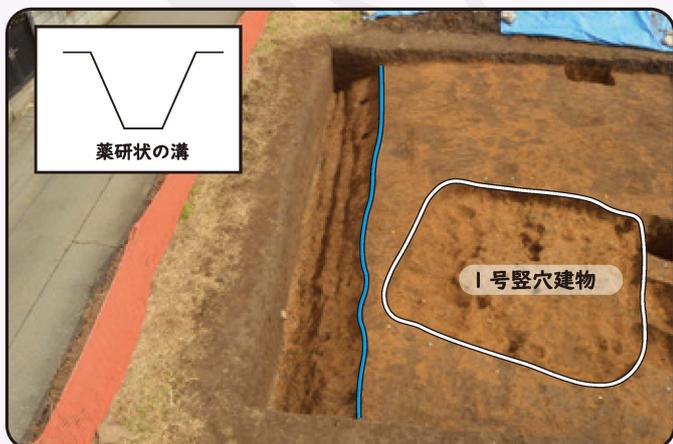


1号竪穴建物



岩鼻式土器

1号溝は薬研状に掘られた溝で深さは90cm程の大型の溝です。溝からは常滑産(東海地方)の甕片や、青磁の碗などが出土しており、鎌倉時代に掘削された溝であると考えられます。付近には在地領主勝氏の館と伝承のある宗福寺が至近しているため、この溝も勝氏に由来する人物の館を構成する区画溝である可能性が考えられます。



1号溝

《鎌倉御家人 勝氏》

勝氏は現在の坂戸市大字石井付近を拠点とした鎌倉時代の御家人です。武蔵七党の内の村山党に属し、承久の乱では鎌倉方の御家人として参戦しました。鎌倉幕府の正史である『吾妻鏡』には、承久の乱での活躍が記されています。

勝氏の居館は、坂戸市大字石井に所在する宗福寺付近であると推定されています。宗福寺には、「南無阿彌陀仏」と刻まれた名号板碑が造立されており、勝氏の信仰心を現在に伝えています。

No.6 ^{かみや}上谷遺跡17区(坂戸市大字中小坂地内)

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和6年1月22日(月)～2月16日(金)

調査面積：80㎡

検出遺構：遺物包含層

^{かみや}上谷遺跡は坂戸市東部、^{みよしの}三芳野地区の坂戸台地上に位置しています。過去の発掘調査では、古墳時代の土器製作に関する遺構・遺物が発見されており、『土器づくりのムラ』として考えられる重要な遺跡です。

今回の調査地点は埋没谷の直上に位置しています。長い年月によって堆積した土壌とともに、廃棄された土器が大量に出土しました。出土した土器は縄文時代、古墳時代、奈良時代、平安時代のもので、^{かみや}上谷遺跡における人々の生業の痕跡が垣間見えます。



上谷遺跡17区遺物出土状況



棒状土製品

No.7 ^{にしうら}西浦遺跡54区(坂戸市大字北峰地内)

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和5年7月24日(月)～8月3日(木)

調査面積：77㎡

検出遺構：土坑2基、ピット1基、溝1条

^{にしうら}西浦遺跡は坂戸市入西地区の毛呂台地上に位置する遺跡です。市内において最も多くの発掘調査が行われている遺跡であり、古墳や古代の集落跡が発見されています。

今回の調査では溝1条を含む複数の遺構を調査しました。1号溝は幅2mを測り、出土遺物はわずかに須恵器片が見られる程度でしたが、近隣では古墳(円墳)が非常に多く発見されているため、今回調査した1号溝も、古墳の周溝である可能性が考えられます。



^{にしうら}西浦遺跡54区全景写真

No.8 ^{にしうら}西浦遺跡55・56・57区（^{にいほり}坂戸市大字新堀地内）

調査理由：個人住宅建設

調査期間：55・56区 令和6年1月22日（月）～3月30日（土）
：57区 令和6年2月19日（月）～3月30日（土）

調査面積：478㎡

検出遺構：竪穴建物1棟、掘立柱建物1棟、土坑9基、ピット11基

^{にしうら}西浦遺跡55・

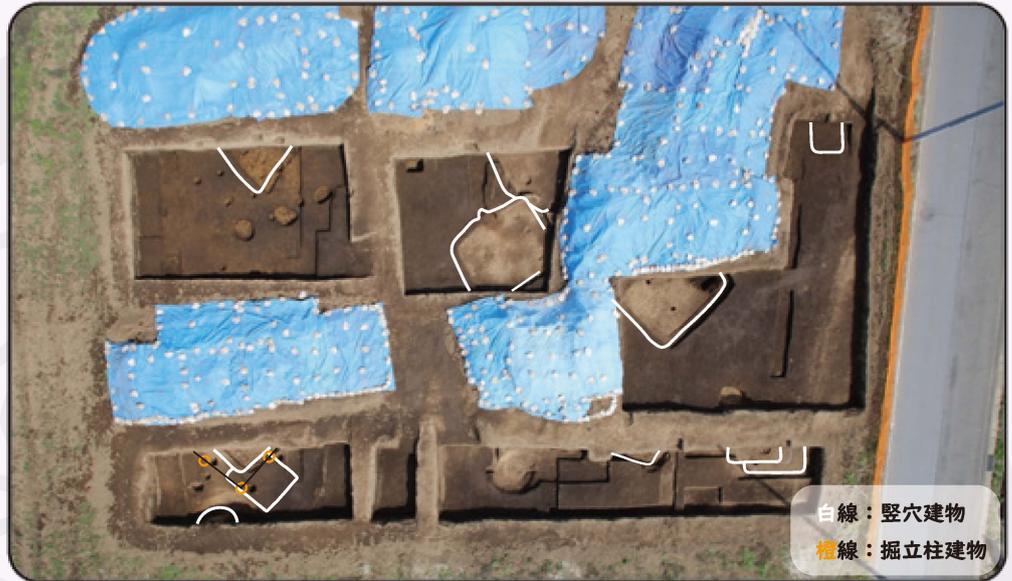
56・57区の発掘調査では、平安時代の竪穴建物の他、複数の遺構が調査されました。

7号竪穴建物

（写真↓）の床面からは、多量の^{しょうど}焼土と炭化木材が出土

しています。これら

は、建物の炎上によって崩壊した建築材と考えられ、過去に火災があったことを物語ります。特に写真の右側に見える炭化木材は、床面の中央部付近から放射状に広がっており、当時の屋根の構造が確認できます。出土した遺物としては、床面の直上から須恵器の^{つき}坏や石製紡錘車^{ぼうすいしゃ}が出土しました。



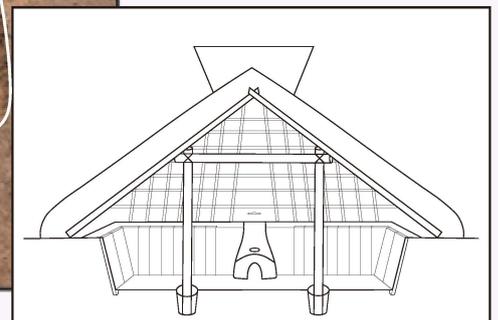
^{にしうら}西浦遺跡55・56・57区全景写真



7号竪穴建物 焼土・炭化木材出土状況



石製紡錘車



竪穴建物復元模式図

No.9 ^{はなみづか}花見塚遺跡 22・23・24区 (坂戸市大字小山^{こやま}地内)

調査理由：個人住宅建設

調査期間：22区 令和5年1月25日(水)～4月28日(金) 令和4年度からの継続事業

23区 令和5年5月2日(火)～6月19日(月)

24区 令和5年6月19日(月)～8月17日(木)

調査面積：22区 145㎡

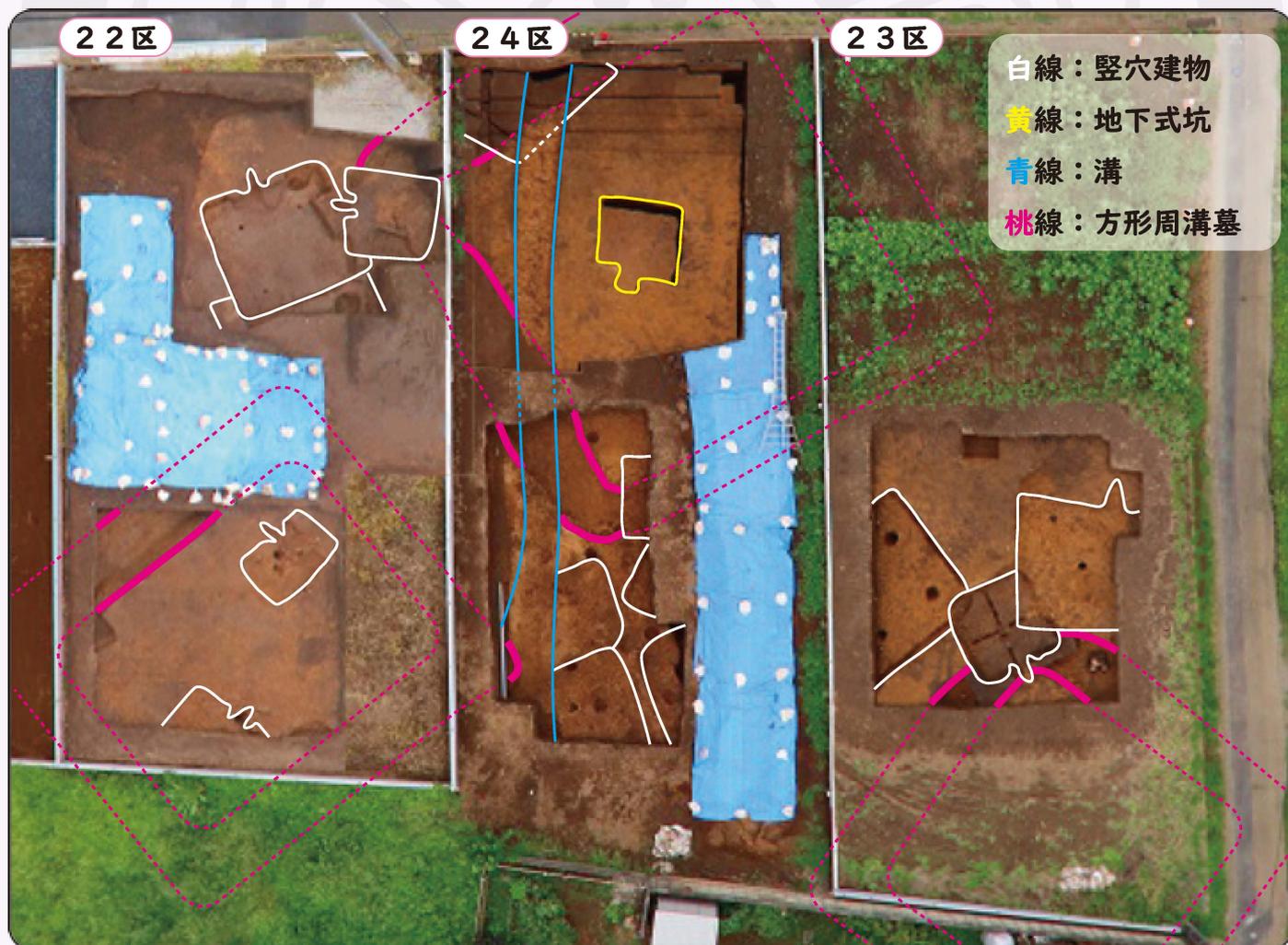
23区 66㎡

24区 172㎡

検出遺構：方形周溝墓3基、竪穴建物19棟、土坑4基、ピット11基、溝1条

^{はなみづか}花見塚遺跡は坂戸市入西地区の毛呂^{にっさい}台地上に位置し、隣接する長岡^{ながおか}遺跡と同様に遺構が集中する遺跡です。昨年度から、連続した地点での調査が続き多くの遺構・遺物が出土しています。

今回の調査地点では、古墳時代の方形周溝墓^{ほうけいしゅうこうぼ}や奈良・平安時代の集落跡、中世の地下式坑^{ちかしき}が^{こう}発見されています。時代毎に異なる遺構が発見されており、墓域から集落域へという^{はなみづか}花見塚遺跡における土地利用の変遷をたどることができました。



^{はなみづか}花見塚遺跡 22・23・24区 全景写真

22区の発掘調査



やりがんな
槍鉤



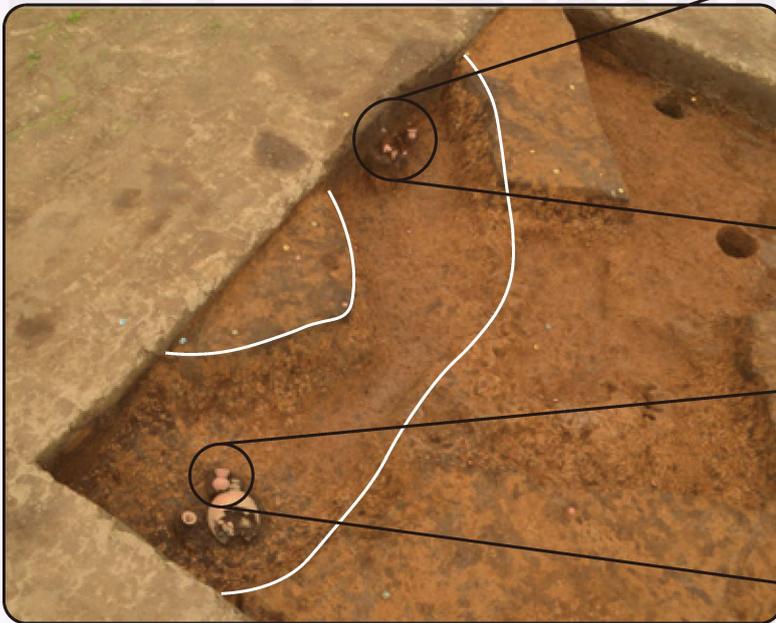
てっぶ
鉄斧



27号竖穴建物

22区で検出した27号竖穴建物は、古墳時代終末期（7世紀頃）の竖穴建物です。建物の規模は、1辺4m程で正方形に近い形状をしています。建物内部にはカマドが設置され、日常的な煮炊きや、防寒設備として使用されたと考えられます。また、特徴的な遺物としてやりがんな てっぶで槍鉤と鉄斧という2種類の金属製品が出土しました。この2種の金属製品は、27号竖穴建物の性格を考察するうえで重要な出土品です。もしかすると、金属工具を扱う工房のような建物だったのかもしれませんが。

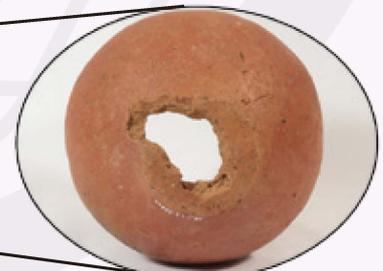
23区の発掘調査



方形周溝墓遺物出土状況



出土した『器台』と『埴（小型壺）』



ていぶせんこう
底部穿孔

23区で検出した方形周溝墓の周溝から供献土器が出土しました。供献土器とは葬送儀礼などの祭祀に用いられた土器で、土器の底部に孔が開けられている『底部穿孔』を特徴としています。今回出土した土器にも底部穿孔が確認でき、何らかの儀礼の一環として土器の底部に孔が開けられたと考えられます。古代人の死生観を感じることができる貴重な遺物です。

24区の発掘調査

写真右の遺構は、中世後期（15～16世紀）の地下式坑です。大きさは3×3mの正方形に近い形状で、関東ローム層を精緻に掘り下げ造られています。詳しい使用年代は不明ですが、倉庫として使用されたと考えられます。写真の上部には出入口用として階段状のスロープが造られていました。



地下式坑



てつせいかま
鉄製鎌出土状況

写真左の遺物は、49号竪穴建物から出土した鉄製鎌です。鉄製鎌を観察してみると、頻繁に使用されていたためか、刃付近がすり減っている様子が確認できます。稲作や畑作などの農作業に使用されたのでしょうか、古代の人々の生業なりわいが感じられる出土遺物です。

《 須恵器に見える目印！？ 》

須恵器は土師器とは異なり、ロクロで生産され、登り窯を使った高温で焼成されます。現代の焼き物のルーツとなる須恵器ですが、坂戸市で出土する須恵器は、主に近隣の南比企窯跡群みなみひき（比企郡）と東金子窯跡群ひがしかねこ（入間郡）の2つの古代の窯場で生産されていました。特に南比企窯跡群で生産されていた須恵器が、坂戸市内では最も多く出土しています。

さて、私たち学芸員は一体どのようにして須恵器の産地を特定しているのでしょうか。それは、須恵器の表面に確認できる白い針状の物質はくしよくしんじょうぶつ、『白色針状物質』の存在です。南比企窯跡群で生産される須恵器の胎土には白色針状物質が含まれていません。しかし、東金子窯跡群で生産される須恵器には確認できず、この含有物の違いが南比企窯跡群産であるということの裏付けになるのです。

このように私たち学芸員は、須恵器の表面に見える小さな物質を観察して産地を特定しています。皆さんも機会があれば、須恵器の表面を観察してみるのもおもしろいかもしれません。



白色針状物質

No. 10 ^{はなみづか}花見塚遺跡25区(坂戸市大字小山^{こやま}地内)

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和5年10月26日(木)～11月27日(月)

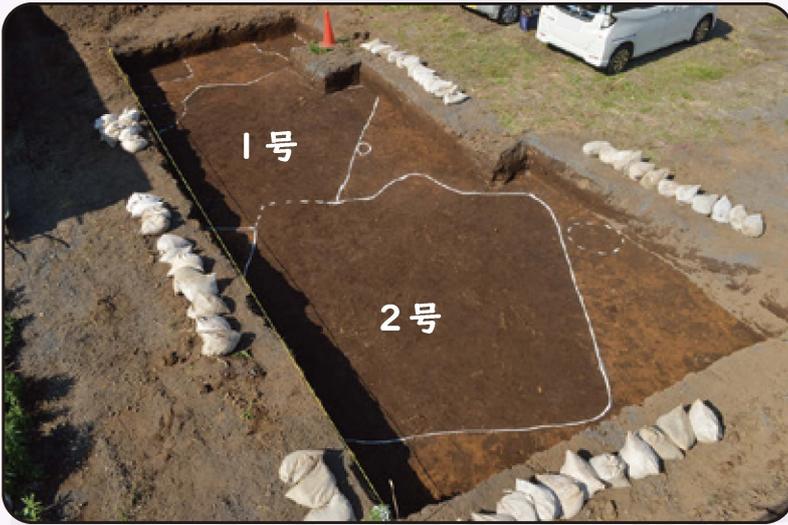
調査面積：48㎡

検出遺構：竪穴建物4棟、掘立柱建物1棟、土坑1基、ピット23基

^{はなみづか}

花見塚遺跡25区は花見塚22～24区に隣接する調査地点です。25区の発掘調査で

は、奈良時代の竪穴建物のほか複数の遺構が調査されました。



掘削する前の1・2号竪穴建物



1号竪穴建物出土 須恵器^{つき}坏と蓋^{ふた}



1号竪穴建物



2号竪穴建物

1・2号竪穴建物は奈良時代の竪穴建物です。両竪穴建物にはカマドが設置されていました。カマドの内部は土が赤く焼け、焼土化しているため、頻繁に使用されていたと考えられます。



2号竪穴建物出土 土師器^{つき}坏

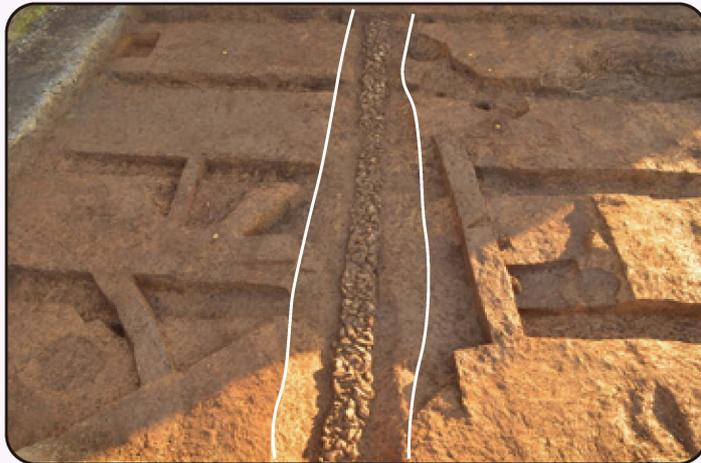
No. 1 | ^{はなみづか}花見塚遺跡26区(坂戸市大字^{こやま}小山内)

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和5年11月9日(木)～12月22日(金)

調査面積：201㎡

検出遺構：掘立柱建物2棟、土坑11基、ピット19基、溝9条



^{れきご あんきよ}礫込め暗渠

^{あんきよ}礫込め暗渠』も農地改良のために造られたと考えられます。出土した遺物は幕末～明治初期の遺物が出土しています。



12号土坑完掘状況



12号土坑の土層断面

^{はなみづか}花見塚遺跡26区での発掘調査では複数本の溝跡が検出され、検出された溝跡の内、6号溝の底面には^{れき}礫が敷き詰められていました。

この遺構は『^{れきご あんきよ}礫込め暗渠』と呼ばれています。^{あんきよ}暗渠とは排水用に造られた地下式の水路のことで、水はけの悪い農地などに用いられました。今回の調査で検出した『^{れきご}礫込

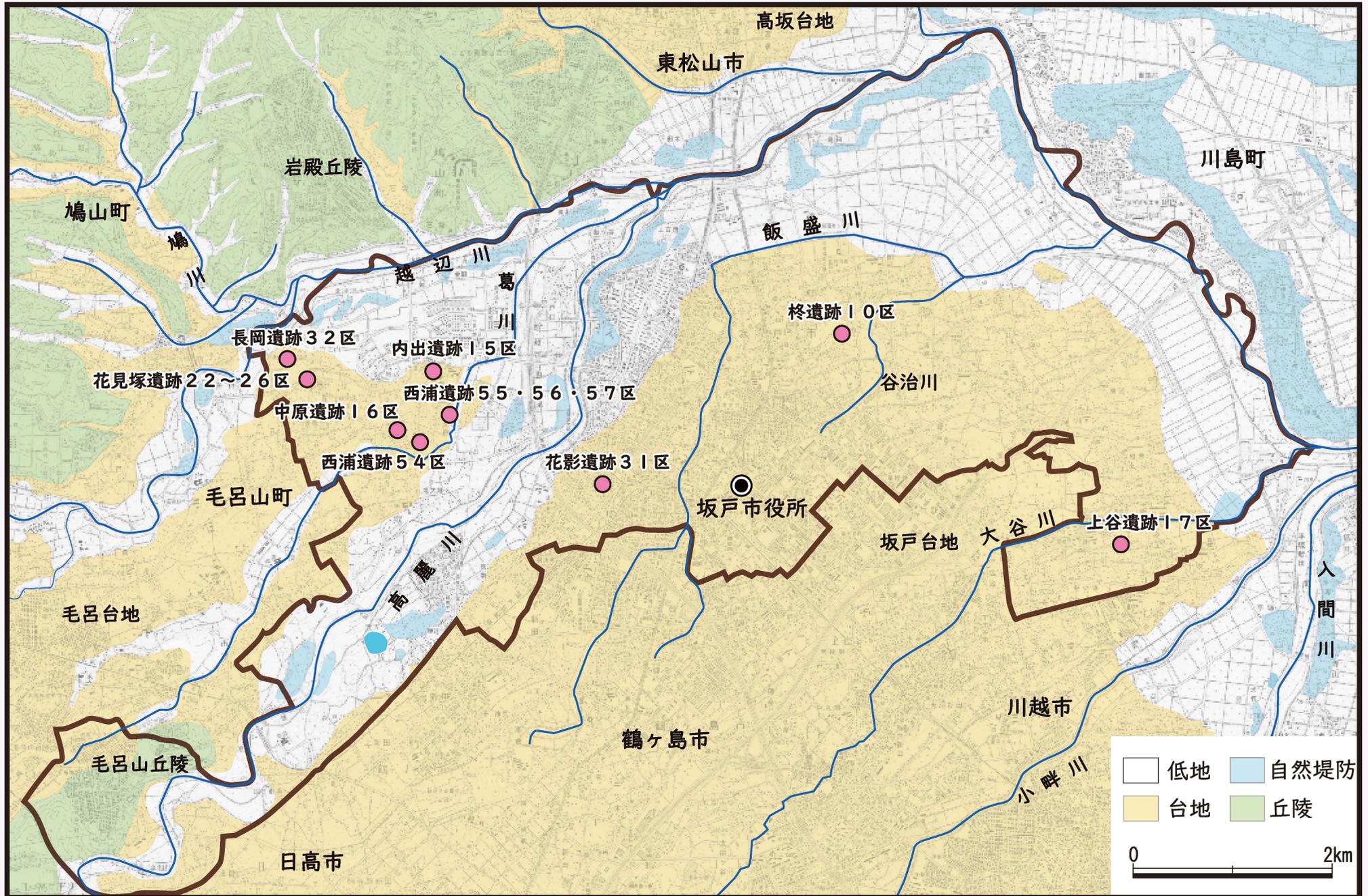
検出した12号土坑は直径3mを超える大規模かつ不定形な土坑です。出土遺物は古墳時代後期の遺物が出土しています。出土遺物や土坑の覆土の状況から粘土採掘坑の可能性が考えられます。

《粘土採掘坑とは》

粘土採掘坑は土器づくり等の主原料となる粘土を採掘した土坑です。地下に眠る粘土層を目指して掘り進めるため、不定形な形状となる場合が多いことが特徴です。

坂戸市においてはいくつかの粘土採掘坑が発見されていますが、いずれも土器づくり等が行われた製作遺跡付近で発見されています。そのため、今回検出した^{はなみづか}花見塚遺跡近辺にも製作遺跡が存在する可能性が考えられます。

令和5年度発掘調査地点



埋文さかど年報
令和5年度発掘調査

発行：令和6年12月31日
発行者：坂戸市教育委員会 坂戸市千代田一丁目1番1号
印刷：有限会社 タイアップ・ユウ